

いぶり基金特別枠 事業実施報告書

団体名 一般社団法人北海道ブックシェアリング(「ウォールペイントで、むかわの街を元気に！」実行委員会)

申請事業名 ウォールペイントでむかわのまちを元気に！事業

報告対象期間 2018年11月1日～2019年3月31日

事業実施日程

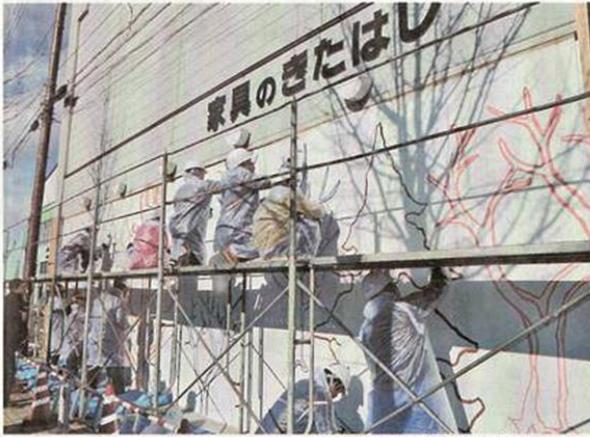
2018年11月1日	打ち合わせ (社会福祉協議会)
11月6日	打ち合わせ (鶴川高校)
11月7日	打ち合わせ (ボランティア)
11月8日	デザイン依頼
11月10日	資材手配
11月16日	デザイン決定 打ち合わせ (社会福祉協議会ほか)
11月18～22日	ペイント実施
11月28日	チカホでパネル展を実施

事業実施による成果と課題、今後の活動予定

北海道胆振東部地震で大きな被害を受けたむかわ町において、商店主から「部分損壊した商店のベニヤ板の覆いにペイントして、まちを活気づけてほしい」との要望があり、メインストリートというロケーションや商店主の思い、そしてスケジュール(ボランティアで参加した鶴川高校の生徒の参加可能な日程や、ペイントの関係上、降雪前の実施が必要であった)を鑑みながら、モチーフ作成や手順の策定、資機材の手配、人的配備を進めました。

鶴川高校から100人の生徒がボランティアとして参加し、絵筆を振るってくれました。また社会人のボランティアが16名と、多くの力を得て無事完成することができました。高さのあるベニヤの囲いですので足場を設置し、その際にはヘルメットの着用や資材の手渡し係の確保、行程や体調確認などさまざまな安全性に配慮しました。また歩道にペンキをこぼさないための養生や、誘導員による通行する人たちへの安全も確保しました。これまでむかわ町では、学生と商店街との接点がありませんでした。今回の事業を通して立場や年齢を超えた「協働」での成功体験となり、商店からも学校からも「大きな手応えがあった」との声をいただきました。むかわ町における非常時の際の助け合いの事例として、実りの大きな事業であったと思います。

被災店 アートで元気に



きたはし工房の店舗のベニヤ板に木の絵を描く 鶴川高校生＝20日

むかわ・中央通り

鶴川高校生らが描画

「伸びゆく木」未来へ願い込め

【むかわ】胆振東部地震で建物などが被害を受けた町中心部に元気を取り戻そうと、目抜き通りの中央通りに面した「工房」を筆でベニヤ板に絵を描く取り組みが19日始まった。高さ2・8メートル幅11メートルの大きな「キャンパス」に描く絵のテーマは「伸びゆく木」。「将来を担うむかわの子供たちが大きく成長するよう」との願いを込め、鶴川高校生100人も筆を揮う。

(小宮実秋)

発案したのは町未だで家具販売などを営む「きたはし工房」の北橋登美子さん(64)。地震で店舗入り口のガラスが割れ、巨大なベニヤ板に覆われた姿に寂しさを感じたのがきっかけだ。相談を受けた町社会福祉協議会は、町内で10月に開

かれた被災者支援の会合に出席していた一般社団法人「北海道ブックセンター」(江別市)の代表の荒井宏明さん(55)に協力を依頼。荒井さんはフェイスブックを通してボランティアと資金を集めた。デザインは、荒井さんと知り合いで

絵画教室講師の秋元さなえさん(30)「江別市在住」が担当した。

作業2日目の20日は、荒井さんやボランティア9人が早朝に描いた下絵に沿っ

て、鶴川高校生50人がペンキでカラフルな色を塗った。2年の岡本実玖さん(17)は「見る人が楽しい気持ちにならなう」と一生懸命塗りましたと笑顔を見せていた。

北橋さんは「高校生が絵を描き、形になっていく様子を見てワクワクする気持ちになった。出来上がりが待ち遠しい」と期待する。

きたはし工房は昨年、半壊した店を解体し、仮設店舗への入居を希望しているが、ペイントしたベニヤ部分は看板として敷地に残すことを検討している。



